

<経済>

香港・深センの株式相互取引開始

1 2 月 5 日、香港と中国・深センの両証券取引所は、株式の売買注文を取り次ぐ相互株式取引「深港通」を開始しました。2014年11月に始まった香港・上海取引所間の相互取引「滬港通」に続く、中国本土と香港との新たな越境取引ルートの開通により、中国の市場開放が進むことが期待されています。

深セン市場にはハイテク関連企業が多く、香港や海外の投資家は香港経由で深センの高成長企業への投資が可能になります。また、本土投資家も投資先が約100銘柄増えることとなります。香港政府は「一国二制度の特徴をよく表わしている」として歓迎しています。

しかし初日の取引量は、深セン株への投資が1日の限度額の2割にあたる27億1千萬元、香港株への投資が限度額の1割にあたる8億5千萬元となり、低調なスタートとなりました。理由として、人民元安により中国本土株が敬遠されたこと、市場が中国と米国の政策動向を様子見していることなどが挙げられていますが、何より海外投資家が抱く中国市場への不信感が最大の理由と見られています。

香港はいま、世界の金融ハブとしての地位をシンガポールや他の国々に奪われようとしています。香港の優位性の一つである中国との密接な経済関係を活用し、香港市場の魅力をアピールするチャンスになるのでしょうか。

<社会>

○香港

香港上海銀行のライオンがレインボーカラーに

香港上海銀行本店のシンボルであり、香港ドル札にも描かれている2頭のブロンズのライオン像が、レインボーカラーに塗り替えられ、話題になっています。

これは、性的少数者（LGBT）を支援するもので、香港人アーティストのマイケル・ラム氏が手掛け、「多様性の中の統一や誇り」を表現しているとのことでした。



<レインボーカラーのライオン像>



<従来のライオン像>

香港上海銀行は以前より L G B T をサポートする企業として有名ですが、銀行のシンボルであるライオン像を塗り替えるといった活動は珍しく、L G B T 反対者のみならず株主や顧客からも批判を浴びており、抗議署名活動も行われています。ネット上では賛成派・反対派双方のコメントが殺到し、大論争を巻き起こしています。

実際にレインボーライオンを見にいったところ、従来置かれているライオン像が塗り替えられたのではなく、本店建物の裏手に、レプリカのレインボーライオンが、本物と対峙するように展示されています。日本でも性的少数派が認知されつつありますが、香港では、国を代表する金融機関がこのように大胆な行動に出ることで、今後もさらに議論を巻き起こしそうです。

○台湾

自転車シェアが大人気

台北の街にはスクーターやバイクがあふれ、特に朝夕のラッシュアワーは、バイクの大群が我先と競って猛スピードで駆け抜ける光景が見られます。しかし、バイクだけが原因ではありませんが、台湾の大気汚染は周辺のアジア諸国（シンガポール、香港、韓国など）よりも悪いと言われています。

2012年、台北市はバイクなどの排気ガスによる大気汚染を食い止めるため、台湾の世界的自転車メーカーであるジャイアント社と協力し、自転車シェアリング「You Bike」を開始しました。利用者は着実に増え、自転車シェアの成功例として世界から注目されています。

利用方法は簡単です。日本のスイカのような悠遊卡（Easy Card）に利用者登録すると携帯電話に暗証番号が届き、それを入力すればすぐに利用できます。料金は、最初の30分が5台湾ドル（約20円）、4時間以内なら30分につき10台湾ドル（約40円）、と安く設定されています。郊外の住宅地から台北市内に通勤・通学している人々が、台北市内に着いてからの移動手段として短距離で使用しているほか、夜に遊びに行ったり、デートに使うなど、夜間の利用が多いことも台湾ならではの特徴です。

現在、台北市内には200以上のレンタルステーションに6000台以上の自転車が設けられています。また、台北以外の都市にも自転車シェアが広がっており、台湾の「自転車大国」としての取組みはますます広がっていきそうです。



香港・広東省の見本市予定 (2017 年 1 月～2017 年 3 月)

香港

見本市名	場所	期間
第 43 回香港おもちゃ&ゲームフェア	HKCEC	1/9～1/12
LOHAS EXPO 2017	HKCEC	2/23～2/25
香港ダイヤモンド&パール展	亜州国際博覧館	2/28～3/4
香港国際ジュエリーショー	HKCEC	3/2～3/6
香港国際フィルム&TVマーケット	HKCEC	3/13～3/16

※ HKCEC : 香港コンベンション&エキシビジョン・センター

※ 亜州国際博覧館 : アジアワールドエキスポ (香港国際空港側展示会場)

広東省

見本市名	場所	期間
第 14 回自動車関連部品フェア	SZCEC	2/15～2/17
Personal Care&Home Care Ingredients	PWTC	2/21～2/23
SPS-広州工業・オートメーションフェア	琶洲会場	3/1～3/3
第 24 回包装&加工機械展	琶洲会場	3/1～3/3
第 37 回国際家具フェア (東莞)	GMICE	3/16～3/20
第 39 回中国国際家具展	琶洲会場	3/18～3/21 3/28～3/31
広州 INTERZUM(CIFM) (家具用機械・材料)	琶洲会場	3/28～3/31

※SZCEC : 深圳コンベンション&エキシビジョン・センター

※PWTC : 保利世界貿易中心 (広州)

※琶洲会場 : 中国出口商品交易会琶洲展示館 (広州)

※GMICE : 東莞モダン・インターナショナル・エキシビジョン・センター

上記の見本市は予定が変更になる場合もありますのでご留意下さい。

★トピックスレポート（香港人スタッフ便り）★

MTRの開発と歩む香港の未来

香港の主要な交通手段である地下鉄「MTR」は、1975年に開通し、2000年に民営化しました。MTRのミッションは、一日平均240万人の乗客を安全に運ぶこと、そして住民の生活の質を向上することにあります。そのために、路線は毎年のように延長、または新線が開通し、周辺の開発もMTR主導で行われています。各駅の構内には店舗、ATM、インターネットスペースが整備され、駅周辺では居住・商業スペースが開発されています。

2016年12月に開通した「サウス・アイランド線」は新しく開通した路線の一つです。香港島の北側の中心地「金鐘駅」から、香港島を南北に貫き、香港島南側の「サウス・ホライズン駅」までの7キロを結びます。途中には人気の遊園地「海洋公園」に直結する駅があり、今までバスしかなかった海洋公園への交通手段が便利になったことから、入園者の増加が期待されています。

もう一つ、開通が待たれているのが「沙田・セントラル線」です。九龍半島のいくつかの既存の路線を結ぶ当ラインは、最終的には、中国・深センとの国境の駅から香港島の中心地までを一本で結ぶこととなります。現在、香港島から深センに行くには、一度九龍半島に渡り、駅の中を徒歩で移動したうえで、さらに電車を乗り換えなければならず、深センへの出張の多い日本人駐在員にとっては移動がネックになっていました。当ラインの開通により、香港島、九龍半島と深センがMTRによってより便利につながっていきます。九龍半島側の工事は2019年、香港島に結ぶ海底トンネル工事は2021年に完成する予定です。

香港MTRは、世界で最も高品質な鉄道の一つとして評価されています。私はMTRの利便性、運賃の安さ、サービスの高さに誇りを持っています。私たち香港人はこれからもMTRに毎日乗り続け、今後も素晴らしいサービスの提供を期待しています。



サウス・アイランド線（左）と沙田・セントラル線（右）